

## 子どもの性的成熟における親の意識に関する国内研究の文献レビュー

キーワード：親 性的成熟 思春期

○河内浩美<sup>1)</sup>、和田由紀子<sup>2)</sup>  
東京医療保健大学<sup>1)</sup> 新潟青陵大学<sup>2)</sup>

## I 目的

性的特徴を伴う成長発達が著しい思春期という時期は、子どものセクシャル・ヘルスの視点から家庭において親たちが役割を果たす重要な時期とされる<sup>1)</sup>。しかし、子どもの性的成熟において不安や戸惑いを持つ親の存在が明らかとなっており、親たちが期待されるような家庭での役割が十分果たされているとは言い難い現状がある。

性的成熟の成長発達にある子どもを持つ親を理解するという視点から、客観的指標により子どもの性的成熟に対する意識を明らかにすることは、親に向けた支援の一助となる。そこで、客観的に測定可能な尺度開発における基礎資料として、本研究は国内の文献レビューから子どもの性的成熟における親の意識を見出すことを目的とする。

## II 方法

文献検索は、医学中央雑誌をデータベースとして使用し、キーワードを「親」「思春期」を用いて1990年から2013年の期間において実施した。検索により223編の文献が抽出され、本研究の目的に関連する32編をレビューの対象とした。

本研究において以下の通り用語を定義づける。

## 【性的成熟】

2次性徴の出現、性意識および性行動への興味の出現に始まる性的特徴を伴う成長発達から性交と生殖が可能となるまでの過程を示す。

なお、倫理的配慮として文献の取り扱いについては著作権を侵害することがないように配慮した。

## III 結果

文献における傾向として、発表された年代別においては、2000年代前半12編、2000年代後半11編、2010年代以降3編と2000年以降に急激な増加傾向を示していた。研究対象については、親を対象とするものが28編であり、先行研究といった文献を対象とするものが3編であった。また、研究方法の多くは調査研究であった。

調査研究の内容では、性的会話への態度において、父親母親ともに性に関する会話へ抵抗感を持つものが多く、実際に会話する機会も乏しいとされ、その担い手の多くは母親であると報告されていた。また、性に関する話をするについて「話のしにくさ」や「どのように話してよいのか分からない」とする報告がみられた。更に、性的成熟

への知識においては、親たちの情報源の多くは友人や知人、雑誌や漫画が多くを占めているとの報告が多かった。また、子どもの悩みにおいては、性に関する質問を受けた経験があり、子ども年齢により内容が変化しており、悩みの相談については、親と子どもでは認知のズレがあるとする報告等がみられた。その他、家庭における性教育の実態として性教育への意識や行動、親の否定的セックス観と消極性への関連、親の性へのイメージや性に関する会話の実態などであった。

## IV 考察

子どもの性的成熟への親の意識として、性情報の氾濫による影響や性的成長に伴う問題出現への心配などから「性教育」の必要性を感じ、また、予期していない子どもからの質問や異性の友達関係などからの「性的な会話」といった場面において対応への困難さが実態として明らかとなっていた。親たちが持ち合わせている意識については、性に関し話をするについて「話のしにくさ」や「どのように話してよいのか分からない」とする『性的会話への態度』、自分が成長・発達する過程で正確な知識を得る機会が少なく、自信をもって子どもに性を語るができないとする『性的成熟への知識不足』、子どもの生活を全般にわたりよく知っているとする反面、「困っていることや悩んでいること」に理解できていないとする『子どもの悩み理解不足』の実態が明らかとなった。

## V 結論

子どもの性的成熟における親の意識について国内文献のレビューより、『性的会話への態度』『性的成熟への知識不足』『子どもの悩み理解不足』という3つの側面をもつことが取りまとめられた。

なお、今後は得られた結果を基礎資料として尺度の開発に取り組んでいきたい。

本研究は、平成26年度新潟青陵大学共同研究費の助成をうけ実施したものである。

## 【引用文献】

- 1) 松本誠一編. セクシャル・ヘルスの推進—行動のために提言. 32. 東京: 日本性教育協会; 2003.